

株式会社 藤里開発公社の経営状況について

株式会社藤里開発公社の経営状況について、6月議会定例会に報告されたので公表いたします。

令和5年度藤里開発公社部門別損益計算書 (R5.4~R6.3)

(単位：千円)

科 目	ホ テ ル	健康保養館	加工センター	白神山水 生産販売	本 部	合 計
売 上	87,904	28,271	31,095	129,987	0	277,257
指定管理料 (*1)	0	41,600	6,378	16,005	0	63,983
売 上 計	87,904	69,871	37,473	145,992	0	341,240
期 首 在 庫	640	383	3,856	5,487	0	10,366
当 期 仕 入	22,433	4,131	14,268	41,265	0	82,097
期 末 在 庫	599	242	4,960	5,565	0	11,366
売 上 原 価	22,474	4,272	13,164	41,187	0	81,097
売 上 総 利 益	65,430	65,599	24,309	104,805	0	260,143
一 般 管 理 費	72,924	64,991	27,044	70,802	3,378	239,139
営 業 利 益	△7,494	608	△2,735	34,003	△3,378	21,004
営 業 外 収 入	724	957	2,415	1,141	11	5,248
営 業 外 費 用	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	△6,770	1,565	△320	35,144	△3,367	26,252

※6月議会定例会で報告した資料を編集して作成しています。

※事業の収支状況を示すため、償却、補助対象を除いています。

●ホテル（売上高87,904千円、前年度比14,970千円増）

新型コロナウイルス感染症拡大が5類に移行し移動の制限がなくなったことにより、ゴールデンウィークから紅葉シーズンにかけて宿泊客の利用が増えたこと、また、宴会利用が戻り始めたことが売上げ増加の要因の一つです。このほかホームページや予約サイトの画像等のリニューアルなどネット販売の取組強化によりお客様の増加に繋がりました。

●健康保養館（売上高28,271千円、前年度比1,664千円増）

入館者数については、町内等近隣利用者の人口減少、高齢化等により減少となっていますが、観光客やホテル宿泊客の利用により昨年度より増加となりました。また、利用者の利便性を図るため売店の商品充実を図ったほか、キッズキャラバンの開設により土・日の家族連れが集客ができたことが増収・増員に繋がることができました。

一般管理費では、灯油価格が落ち着き水道光熱費が抑えられ削減となりましたが、施設設備については、老朽化が進んでいるため修繕費が増加しています。

●加工センター（売上高31,095千円、前年度比3,129千円減）

水道設備の故障による業務の低下や猛暑と獣害による山ぶどうの原料不足が減収の要因となりました。販売品目では年間をとおしての肉の売上げ、冬場の野菜や米加工は前年度を上回りました。

●白神山水生産販売（売上高129,987千円、前年度比34,043千円増）

例年になく高温及び猛暑が売上げの大きな要因となり、特に主要取引先への販売が好調でした。依然として資材の高騰が続いているため、原価が高くなっています。

<指定管理料について>

開発公社の運営5部門のうち、健康保養館（共同福祉施設を含む）・加工センター・白神山水の館は町有施設であり、町は開発公社と指定管理協定を結び、管理運営を委託しています。健康保養館は、町民等の健康増進を図る拠点であり、加工センター及び白神山水の館は、特産品開発や資源を活用した地場産業の振興を目的として運営されております。

これらの施設の維持管理には、保守料や維持修繕費、水道光熱費や管理のための人件費が掛かるため、町では、施設の健全な運営が図られるよう、維持管理に要する経費と人件費の一部について、一定のルールにより算出した指定管理料を支払っております。

(*1) 指定管理料は施設を管理運営するための経費であり、年度当初に契約した協定に定める金額を基準として支払うものです。